

SDGsの理念に通じ、 かつ留まらない活動を—。

生活クラブ 2030 行動宣言

東京版 24年度 実績報告レポート

2015年「持続可能な開発目標(SDGs)」が国連で合意され、貧困や飢餓、気候危機など人類全体の課題を解決するため、17の世界的目標が掲げられました。

生活クラブではこれまでも「食・エネルギー・福祉」の自給、生産から消費・廃棄に至るすべての過程で「安全・健康・環境」を最大限に追求し、先駆的な活動を進めてきました。それらをふまえ、2020年に『第一次 生活クラブ2030行動宣言』としてまとめ、2022年にはさらに先駆的な取組みを実行すべく『生活クラブ2030行動宣言』を決定しました。

生活クラブ東京でも「東京版2030行動宣言」の目標達成に向けて活動し、2024年度は以下の実績となりました。日々の選択や一歩踏み出すことで達成に近づきます。生活クラブに関わるみんなで、サステナブルな未来をつくっていきましょう。

取組み

実績

1

食料主権の考え方を
基軸とした、国内生産の
追求と、公正な調達を
行ないます。

1-1 組合員の食べる力を強化することで、都市近郊農業の生産と持続性を支えます。

1-2 援農や農業体験などを通して産地との交流を深めることにより、ローカルSDGsを推進します。

学校給食に化学調味料や食品添加物に頼らない質の良い調味料の使用を働きかけます。

3-1 生産・流通・消費・廃棄での環境配慮のため、東京独自品やデポーでの容器包装のプラスチックの使用を削減します。

3-2 日本の林業促進と森林環境保護のため、住宅事業や独自品で東京産木材の活用を推進します。

3-3 温室効果ガス削減のため、配送センターの車両のEV化をすすめます。

大地震など災害時への対策をすすめ、組合員への供給責任を果たすと共に、被災時においてはセンター・デポーを拠点にし、まちコミュニティと連携し地域に貢献します。

原発の問題と合わせ、再生可能エネルギーの意義をひろめていくことにより、原発を再稼働させない活動を推進します。

2

素材本来の味、
食材にまつわる知恵や
文化を大切にして、
健康で豊かな
食の実現をはかります。

3

地球の生態系を
維持するため、海や陸の
環境保全と気候変動対策に
取り組みます。

4

社会の存続をおびやかす
危機への対策をすすめ、
暮らしと未来を守ります。

5

原発のない社会をめざし、
再生可能エネルギーの
生産と普及に取り組みます。

1-1 小平センターで枝豆の、多摩統合センターで**野菜セットのスポット取組み**を実施しました。北東京では、取組みにむけて生産者と協議会を設け**討議**をすすめています。

1-2 「北東京小さな農園」が開設され、収穫体験企画を3回実施しました。またおおよそ**190人**が、のらこ3園を利用しました。

26自治体に消費材が**供給**されています。学校牛乳配送事業準備会を立ち上げ、多摩統合センターから多摩市(一部)の**学校牛乳配達**が**決定**しました。

3-1 10月からデポー町田で**石けん量り売り**がスタートしました。先行するデポー石神井とあわせて石けんの供給は伸張し、**プラスチック削減**に貢献しました。

3-2 多摩産の木材を使用した雑貨品、**間伐材を使用した台所雑貨品**に積極的に取組み、展開しました。

3-3 板橋センターに**EV組織車**を導入しました。大田センター・小平センターもEV車と充電スタンドを設置しました。

マニュアルを**更新**し、各施設の**防災備品の点検**を行いました。今後は**図上演習**を予定しています。

国の第7次エネルギー基本計画策定に意見表明や署名活動を行いました。また「巨額の原発新増設コストを国民からこっそり徴収する新たな制度(#RABモデル)導入に反対する署名」活動に取り組み、**5,021筆**を集めました。他団体の署名と合わせて**87,994筆**を国に提出しました。

再エネ・省エネフェアを3単協で開催し、生活クラブでんきの契約に結びつけることができました。

1-2

北東京小さな農園
北東京 木村理事長



地域の力で食・環境・仕事などを確保し、暮らしを豊かにするためのローカルSDGsをすすめています。「北東京小さな農園」では、都市の農地保全を目指し練馬区の組合員でチームを作り560㎡の耕作を始めました。江戸東京野菜を中心に農業を使わず、肥料も生活クラブたまごの発酵鶏糞のみにとどめた農業をしています。15年以上前、まち活動で地場野菜生産者の畑を訪ねて「畑の生き物調査」を夏休みの親子企画として実施したことがきっかけとなり、地域の人と人の縁も大事につないで実現に漕ぎ着けました!



農園での作業風景

3-1

デポー町田
宝田マネージャー



リニューアルを機に10月より石けんの量り売りを導入しました。はじめての方にも利用しやすいように空容器を準備して購入をサポートしています。少しずつですが利用する組合員も増え、24年度は石けんの供給実績が前年比101.6%と伸張しました。25年7月には生産者のエスケー石鯛(株)を招いて学習会、フロアーアピールを開催しました。これからも生産者、まちと協力してプラ削減の推進、そして石けんの利用を進めていきます。



デポー町田の量り売りコーナー

取組み

6

誰もが個性を活かしながら、安心して生活を営める地域と社会をつくりま

地域でたすけあえるコミュニティを増やし、地域での自発的で多様な活動を広げます。

.....

7-1 障がいやその他さまざまな理由で就労が困難になっている人が地域で働き続けられる場づくりとして、生活クラブのセンターやデポーでの就労の受け入れをすすめます。

7-2 組合員の空き家・空き室、住宅確保要配慮者の住まいの確保など、居住支援の取り組みをすすめます。

7-3 エッコロファンドを活用した子ども基金を拡充させ、子どもや子育て家庭の支援に取り組みます。

.....

8-1 草の根市民基金ぐらんの助成団体など社会的課題に取り組む団体との交流を深め、公正な社会づくりに寄与します。

8-2 非戦と平和のための学びの場を作り、平和で公正な社会をめざす活動をします。

.....

協同組合型の事業体であるワーカーズなどの連携を強め、各地域におけるワーカーズ運動を推進します。

.....

シャボン玉月間の取り組みなど、行政と連携し、環境保全活動に取り組みます。

.....

消費材Step Up点検の意義の理解をすすめる、消費材の利用推進、その後の運動につながる活動を展開します。

実績

各まち**1**コミュニティを新規に作る目標で活動しました。期首**527**から**20**増やし実績は**547**コミュニティでした。

7-1 大田センターで**生活困窮者就労訓練事業所登録**が完了しました。

7-2 居住支援&空き家空き室活用チラシを**2**回配布し、相談が**9**件寄せられました。入居に関する相談実績は**55**件で対応終了は**33**件、**内14**件が入居に繋がりました。

7-3 エッコロ子ども基金は、地域の子ども支援8団体+運動グループによる食支援5団体**計13**団体に助成しました。

8-1 2024年度登録寄付実績は登録人数1,648人、登録口数4,379口、登録寄付金額は531万3700円。単発寄付は123万2千円。寄付金付き消費材は162,400円でした。これらの寄付から**都内7**団体と**アジア2**団体に対して**400**万円の助成をしました。

8-2 パレスチナに関する学習会・フォーラムを3回開催し、12月にパレスチナ産オリーブオイルのスポット取組み・カンパを行いました。目標1,000本とところ**2,339**本の利用につなげることができました。カンパは**244,534**円が集まり、組合員からのメッセージとともにパレスチナの生産者へ届けました。

組合員の生活をサポートし就労支援で仕事を創出する『家事支援サービス事業』という共同事業の実験取組みをすすめました。『2024年度版【保存版】私らしく地域ではたらく』を年3回発行し、**7**名の就労につなげることができました。

50自治体からメッセージを取得しました。実際に首長と対面できた自治体は**12**で、**3**自治体(狛江市、三鷹市、多摩市)から後援を取得しました。

東京1回、23区南2回、北東京2回、多摩きた1回の実施がありました。全体で、23年度より2件多い**合計6**件の実施でした。

6



新規コミュニティの立ち上げ
コミュニティ「さやまクラブ」リーダー
実川 圭子さん

近所の組合員とつながりたいと思い、「さやまクラブ」を立ち上げました。顔合わせのお茶会や、その後の緊急支援物資受け取り訓練、共に参加者が少なかったため、コミュニティ内の組合員全員に物資を届けました。「遠くまで取りに行くのは難しい」、「コロナ禍以降外出しにくい」などいろいろな事情もわかりました。今後も試行錯誤しながら、緩やかにでも繋がりをつくってまいります。



組合員と会う活動
コミュニティで試食

8-2

パレスチナ産 オリーブオイルの 取組み

平和活動の一環として、ヨルダン川西岸地区で生産されたパレスチナ農業開発センター(UAWC)のオリーブオイルを取り組みました。パレスチナの人にとってオリーブの生産を続けることは、人の尊厳を守るための取組みであり、占領に対する抵抗のシンボルです。配送では1本につき100円を上乘せし、デポーでは店頭でカンパを呼びかけ、集まったカンパ金は生産者のオリーブ収穫のための道具類にあてられました。フェアトレードを通じて共生と非戦を訴え続けます。



パレスチナから生産者を招いた交流会

「生活クラブ2030行動宣言」について /
詳しくはこちら



9

ジェンダー平等と多様な働き方を実現します。

あなたの参加と行動でつくる私たちの未来

生活クラブがここ東京の地に生まれて60年。生きることに欠かせない「食」「エネルギー」「ケア」「働く」などいろいろな場面で問題提起をし、解決に向けてともに行動する人たちを増やしてきました。共同購入に参加すること、生産現場とつながること、再生可能エネルギーを選択すること、身近な地域でたすけあいができる関係を築くこと、仕事を生み出すこと、参加の入り口はたくさんあります。『生活クラブ2030行動宣言』はより多くの人の実践が伴うことではじめて意味のあるものになります。2024年、あなたはどんな行動をしましたか。

本報告書が、さらに多くの人の具体的な行動に結びつくことを願っています。2025年5月、国会にて「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る決議」が採択されました。「政府は協同組合の定義、価値、原則を尊重し、持続可能な地域社会づくりの主体として協同組合を位置づけ、その振興に取り組むべきである」とした、初の国会決議です。

私たちが協同組合の一員として誇りを持って活動していきましょう。



加瀬 和美さん
生活クラブ東京 理事長